



Mr. Mark Kolenberg マーク・コレンバーグ氏 アジア・メディア・パブリッシング・グループ ブランドアンバサダーなど

Asia Media Publishing Group

長年に渡り、タイの教育活動に携わってきた聖ガブリエル修道会が運営する私立アサンプション大学で学士・修士(MBAなど)を取得。在学中にはテニスの大会で優勝するなど、現在は「リーダーになる条件である哲学などを学びたい」と人間科学の博士課程で学ぶ。在タイ歴は27年。幼少時から父親に連れられてタイ国内を転々とし、「北部の山岳民族らとの交流などを通じて相互理解を深め、異文化を尊重することを学んで成長してきました」と振り返る。



多才な才能を活かし、 タイ社会に貢献するベルギー人

昨年のサッカーW杯決勝トーナメント1回戦で日本と死闘を演じたベルギー。フェアプレーに徹した日本代表選手だけでなく、「日本のファンは敗戦後に観客席のゴミ拾いを行うなど、ベルギー人に非常に好意的な良い印象を残した」とコレンバーグ氏。日本に論文の発表で訪れる機会があったが、大人だけでなく、子供の規律・礼儀の正しさ、ひたむきさなどに感嘆したという。

主にスポーツを通してタイ社会に貢献をしているコレンバーグ氏は、多方面にわたってその才能を発揮している。博士号の取得後は週末に大学で講師として働くと同時に、現在携わっている非営利団体(NPO)でテニスなどのスポーツのコーチとして人の役に立ちたいと抱負を述べる。

タイとベルギーが協力できる得意な分野として、飲食・おもてなし・観光などのサービス業界を挙げる。また、欧州と東南アジアの中心にある両国は、その優位性を生かして地域の戦略

的なリーダーになるために緊密に協力することを提案。ただ、上司と部下、教師と学生の権力距離が高いタイとは文化的には隔たりがあり、「タイ人は日本人と同様に『We』で行動するが、ベルギー人『I』で主張します」と説明する。



バンコク交通の要衝を支える「タイ・ベルギー陸橋」

王国同士の絆

ベルギーとタイは昨年、国交

樹立150周年を迎えた。両国とも王国ということで日本の皇室やタイの王室と緊密な関係を保ってきた。バンコク都心を走るラマ4世通りとサトーン通りに架かる「タイ・ベルギー陸橋」に、ベルギーから逆輸入された高級タイ料理レストラン「ブルーエレファント」など、市内には両国の関係が深いことを示す陸橋がある。「タイ料理はベルギーで大人気。ゴディバなどのチョコレートはタイでも有名」と食べ物にキューピットとなり、結婚に至るカップルも少なくないと相性は抜群だ。

コレンバーグ氏はメディア企業ブランドアンバサダーとしての顔も持つ。政府機関、民間企業のトップから著名人、芸能人まで幅広い人脈を生かして他のメディアとは一線を画す取材方法で報道する。学問、仕事、社会活動と三足の草鞋を履く多忙な日々を送るが、今後は情熱のあるひとかどのある人物としてタイ社会に貢献したいと熱く語る。